



心構えと楽しむ気持ち

先月から今月にかけて、様々な異学年交流がありました。10月に本校卒業生の高校2年生が2人、インターンシップにやってきました。授業中に道具の準備や丸つけのお手伝いなどしてくれている様子はしっかりしていて、一足早い教育実習のようです。そして昼休み、子どもたちと一緒にグラウンドや体育館を駆けまわって遊んでくれている様子は素敵なお兄さん。そんな様子を見ていて、おやっと思ったのは、いつもしっかり学校を引っ張ってくれている頼もしい6年生たちが2人のお兄さんと一緒にいるとちょっぴり子どもっぽく見えたりしたことです。でも、それもそのはずですよ、高校生2人が6年生だった年、今の6年生たちはまだ1年生だったのですものね。

今月上旬には、1年生の生活科で保育園の年長さんたちをお招きして、秋のたからもの大会を開きました。秋に材料集めから始めて、ゲームコーナーや魚釣りコーナーなどの企画と準備。当日は4つのコーナーに分かれて、園児たちに楽しんでもらいました。大会も終わり園児たちが帰るときには声をかけて並ばせている1年生たち。その姿は、すっかりお兄さんお姉さんです。これもまた、ふだん上級生と一緒にいるときには、あまり気づくことのできない成長の姿です。

つい先日には、4年生が国語の時間に考えた「1・2年生を招待して、新スポーツを楽しむ」ことを目的とした交流会が行われました。この交流会で、低学年たちに指示をしながら整列させたり、ルール説明したりしている4年生たちはとても堂々としていました。重ねてきた準備に裏打ちされた自信からくる進行は素晴らしいもので、ミニ運動会を見ているかのような楽しい時間となりました。そういえば夏の運動会の取組では4～6年生の高学年ブロックだったので教えてもらう側の側だった4年生たちがすっかり教える側へ。ここにも大きな成長が見られます。なによりやり遂げた後の子どもたちの目がキラキラしていたこと。頑張り、よくやったことを、しっかりと達成感に変えていたところが素晴らしいと感じます。

グンと大きく成長した子どもたちに出会い、目を見張ることがあります。でもそれは幾らかの年月を経て少しずつ積み上げてきた成長が何かの機会に表にあらわれたのであって、日々気づかないうちにゆるやかに子どもたちは成長を続けているのだと思います。そのことは6年生たちの頑張りを見ているとよくわかります。「最高学年」を経験したことのないのに、6年生になったらリーダーシップを発揮して後輩たちを引っ張ってくれる。それができるのは春を迎える前から、少しずつ**心構えを重ね**、最高学年になる準備を始めているからなのだと思います。それは子どもたち一人ひとりに言えることです。次のステージに向け日々準備をしているからこそ、ときおり**グン**を見せてくれるんです。

余談ですが、しっかりと後輩たちの面倒を見て楽しませてくれたインターンシップの高校生たち、新スポーツ大会の4年生たち、そして秋のたからもの大会の1年生たち。その頼もしい姿とともに印象に残ったのは、自分たちも一緒に楽しんでいたことです。「誰かに楽しんでもらいたいと思ったら、まずは自分自身が楽しまなくっちゃね。」子どもたちを観ていると大切なこと教えてもらえます。

ほんとに早く下りてくるようになった夜の帳。吐く息の白さと差し出される手のぬくもり。見かける度にあらわれたりひっこんだりする、週間天気予報の雪だるま。すっかり枯葉を落とした寒空の枝。気が付けば真横を通る冬。寒さに負けないよう、どうぞお体にご留意いただければと存じます。